



# Sikalastic®-727

JIS A 6021 高伸長 & 高強度形 ダブル認証 ウレタン塗膜防水材

免責事項:シーカ製品の施工および使用に関する推奨その他の情報は、当社の現時点での知識および経験に従ったものであり、通常の条件下で当社の推奨に従い適切に保管・処理・施工されることを前提としております。実際には、材料・接着面・現場の条件がそれぞれ異なるため、ここに記載されている情報、書面による推奨その他のアドバイスは、商品性や特定目的への適合性について保証するものではなく、また法的関係に基づく責任を生じさせるものではありません。ユーザーは、シーカ製品がユーザーの意図する施工方法および目的に適しているかどうかを、必ず事前に確認してください。特に、施工、施工管理及び施工に関する報告書の作成はユーザーの責任において行うものであることにご留意ください。当社は、第三者の財産権を尊重し、製品の特性を変更する権利を有します。すべての注文は、当社の最新の販売・納品条件に従って受注します。ユーザーは常に、使用する製品のプロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版をご参照ください。プロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版は、ご請求いただければ当社がご提供いたします。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページ <https://jpn.sika.com/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2025年11月版

(25.11月現在) '25.11.2.000 SJ

シーカ・ジャパン株式会社

東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー7F TEL. 03-6434-7291

BUILDING TRUST



BUILDING TRUST



# Sikalastic®-727

## JIS A 6021 の高伸長形の伸びと高強度形の強度を持った 手塗ウレタン塗膜防水材

「Sikalastic®」（シーカラストィック）は、シーカグループが世界で展開しているウレタン塗膜防水のブランドであり、シーカ・ジャパンが日本にて展開するウレタンの新ブランド名です。

「Sikalastic®-727」は長年日本のウレタン塗膜防水をリードしてきた\*シーカ・ジャパンが国内で上市する最初のブランド製品となり、JIS A 6021 の高伸長形の伸びと高強度形の強度を持った手塗ウレタン塗膜防水材の特長を生かした新しくユニークな提案を行ってまいります。

※株式会社ダイフレックス、ディックブルーフィン株式会社、シーカ・ハマタイト株式会社、シーカ・ハマタイト販売株式会社は日本シーカ株式会社に統合し、2023年4月にシーカ・ジャパン株式会社としてスタートしました。



## Sikalastic®-727 の特長

- 機械施工による超速硬化ウレタン塗膜防水材でしか得られなかった高物性を実現
- JIS A 6021 建築用ウレタン塗膜防水材の高強度形と高伸長形の物性を保有
- 特定化学物質無配合
- トルエン・キシレン無配合 (TX フリー)

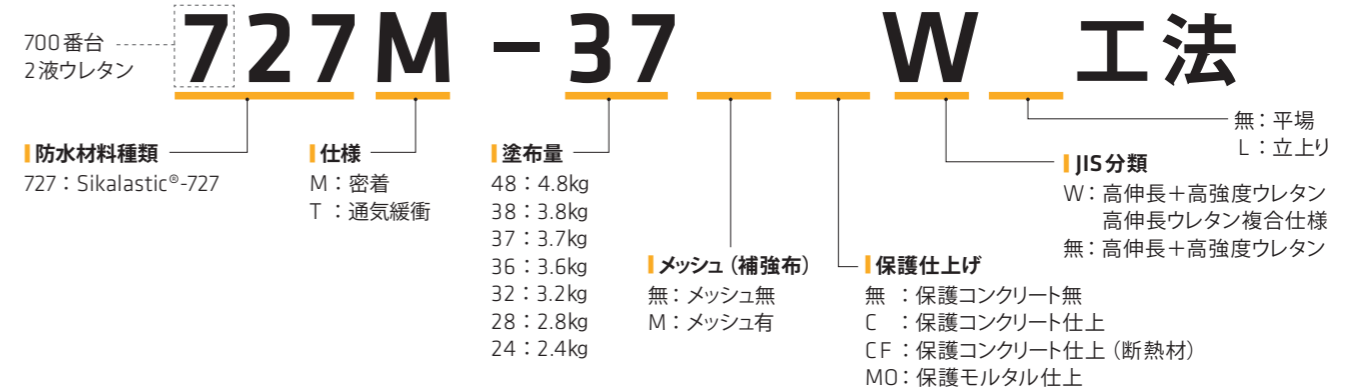
### Sikalastic®-727

硬化物比重 1.2  
 配合比 主剤：硬化剤=1:1 (重量比)  
 荷姿 主剤：硬化剤=12kg:12kg (24kg/セット)  
 特徴 主剤と硬化剤を混合攪拌して防水層を形成する2成分形カラーウレタン。  
 高伸長形の伸びと且つ高強度形の強度を有した防水性能・耐久性に優れたウレタン塗膜防水材です。  
 1回の最大塗布量1.8kg/m<sup>2</sup>となります。

### Sikalastic®-727 立上り用

硬化物比重 1.2  
 配合比 主剤：硬化剤=1:1 (重量比)  
 荷姿 主剤：硬化剤=9kg:9kg (18kg/セット)  
 特徴 主剤と硬化剤を混合攪拌して防水層を形成する2成分形カラーウレタン。  
 たれ抵抗性(チクソ性)が高く、立上り面でもダレにくく厚みを確保できます。  
 1回の最大塗布量1.8kg/m<sup>2</sup>となります。

## 工法記号



表層仕上げ	仕様名	ウレタン施工区分 (メッシュ張り下塗り含まず)	使用ウレタン	密着 (M) 通気 (T)	ウレタン 塗布量 (kg)	メッシュ (M)	保護コンクリート(C) 保護コン断熱(CF) 保護モルタル(MO)	JIS A 6021 ウレタン2種類 複合仕様(W)	立上り (L)
露出	727M-37W	1層目 高伸長 2層目 高伸長+高強度 3層目 高伸長+高強度	DSカラー・ゼロ Sikalastic®-727 Sikalastic®-727	密着 平場 M	3.7			W	
露出	727M-48	1層目 高伸長+高強度 2層目 高伸長+高強度 3層目 高伸長+高強度	Sikalastic®-727	密着 平場 M	4.8				
露出	727M-24	1層目 高伸長+高強度 2層目 高伸長+高強度	Sikalastic®-727	密着 平場 M	2.4				
保護コンクリート	727M-48MC	1層目 高伸長+高強度 2層目 高伸長+高強度 3層目 高伸長+高強度	Sikalastic®-727	密着 平場 M	4.8	M	C		
保護コンクリート (断熱)	727M-48MCF	1層目 高伸長+高強度 2層目 高伸長+高強度 3層目 高伸長+高強度	Sikalastic®-727	密着 平場 M	4.8	M	CF		
保護モルタル (浴室等)	727M-48MMO	1層目 高伸長+高強度 2層目 高伸長+高強度 3層目 高伸長+高強度	Sikalastic®-727	密着 平場 M	4.8	M	MO		
露出	727M-24L	1層目 高伸長+高強度 2層目 高伸長+高強度	Sikalastic®-727	密着 立上り M	2.4				L
露出	727M-32WL	1層目 高伸長 2層目 高伸長+高強度 3層目 高伸長+高強度	DSカラー・ゼロ Sikalastic®-727 Sikalastic®-727	密着 立上り M	3.2			W	L
露出	727M-36ML	1層目 高伸長+高強度 2層目 高伸長+高強度 3層目 高伸長+高強度	Sikalastic®-727	密着 立上り M	3.6	M			L
露出 公共仕様 X-1	727T-38W	1層目 高伸長 2層目 高伸長+高強度	DSカラー・ゼロ Sikalastic®-727	通気緩衝 平場 T	3.8			W	
露出 公共仕様 X-2	727M-38MW	1層目 高伸長 2層目 高伸長+高強度	DSカラー・ゼロ Sikalastic®-727	密着 平場 M	3.8	M		W	
露出 公共仕様 X-2	727M-28MWL	1層目 高伸長 2層目 高伸長+高強度	DSカラー・ゼロ Sikalastic®-727	密着 立上り M	2.8	M		W	L

## 超速硬化ウレタンの吹付けが難しい場合



# Sikalastic®-727 製品特性

Sikalastic®-727は、JIS A 6021の高伸長形の伸びと高強度形の強度を持った手塗タイプの特定化学物質を含まない建築用ウレタン塗膜防水材です。

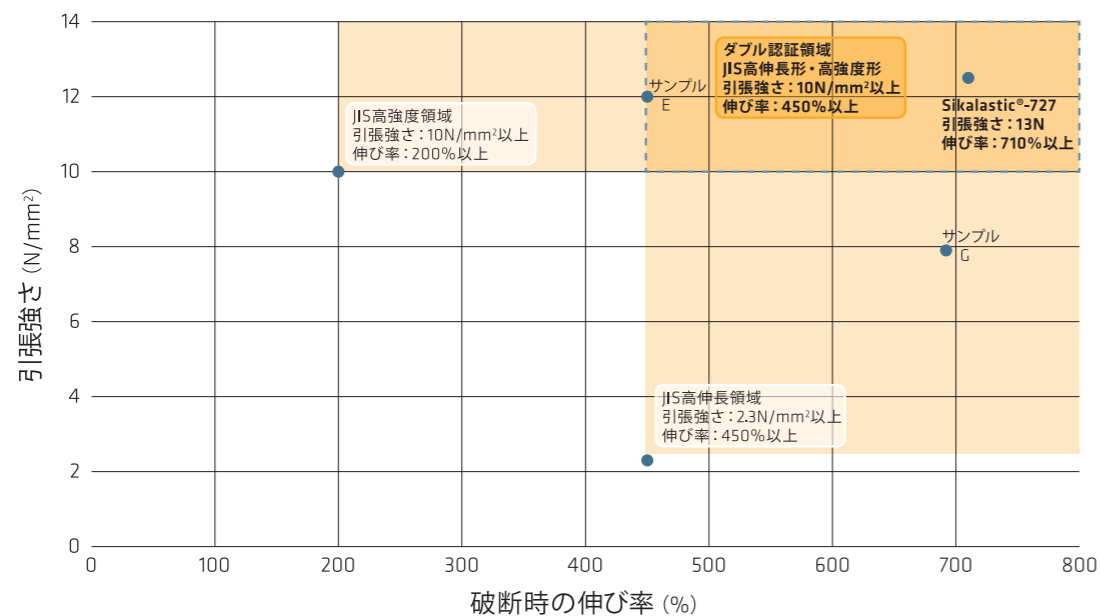
アルカリ温水に対しても優れた耐久性を持った材料なので、汎用のウレタン塗膜防水材では適用できない様々な部位や用途に対応できます。

## ■ 基本性能 (代表値)

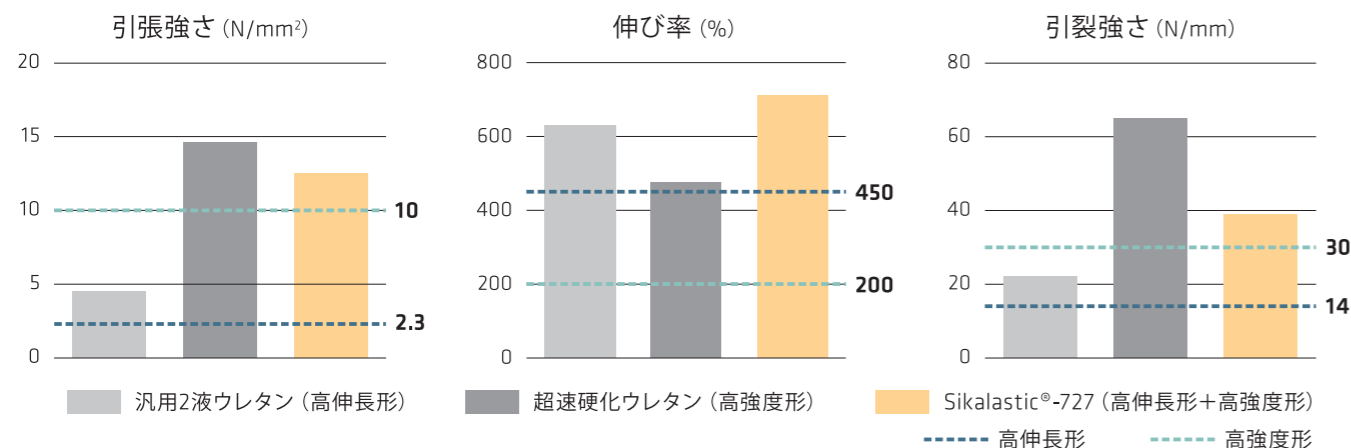
項目	温度 (°C)	高伸長・高強度 ダブル認証*		
		Sikalastic®-727	高伸長形	高強度形
引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )	23	13	2.3以上	10以上
破断時の伸び率 (%)	23	710	450以上	200以上
抗張積 (N/mm)	23	1780	280以上	700以上
引裂強さ (N/mm)	23	39	14以上	30以上
硬度 (タイプA)	23	67	-	-

\*ダブル認証：日本工業規格 建築用塗膜防水材 JIS A 6021における高伸長形、高強度形の規格値を満たしている。

## ■ 製品分布 (引張伸び - 応力特性) JIS A 6021 高伸長・高強度規格



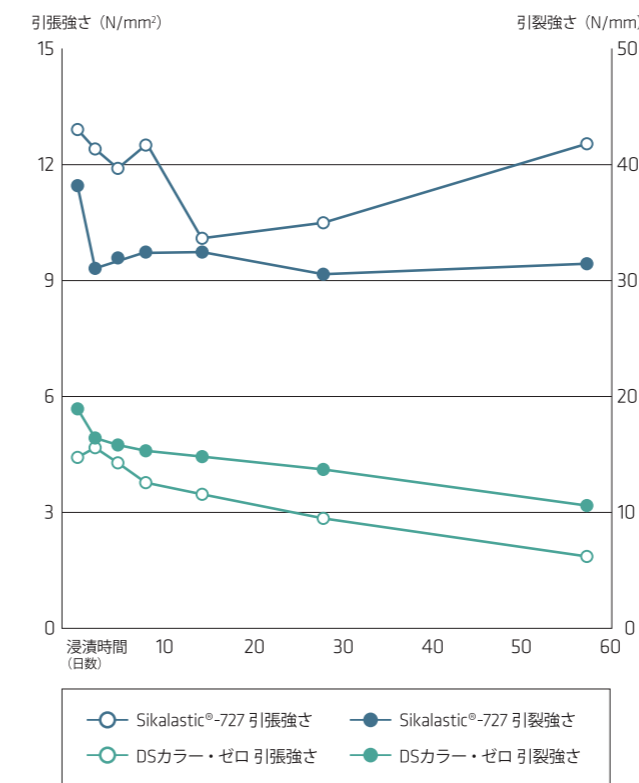
## ■ 汎用2液ウレタン塗膜防水材、超速硬化ウレタン防水材、と Sikalastic®-727 との比較 (23°C)



## ■ 耐飽和アルカリ温水 (60°C) 浸漬試験結果

一般的な汎用2液ウレタンと Sikalastic®-727 の供試体を60°Cの水酸化カルシウムの飽和溶液に浸漬させて物性の変化を測定した。その結果、2ヶ月経過した時点で初期値に対し汎用2液ウレタンは引張強さで41%、引裂強さで56%に低下したが Sikalastic®-727は、引張強さで96%、引裂強さで86%の物性を保持していた。Sikalastic®-727のアルカリ温水に対する耐久性が確認できた。

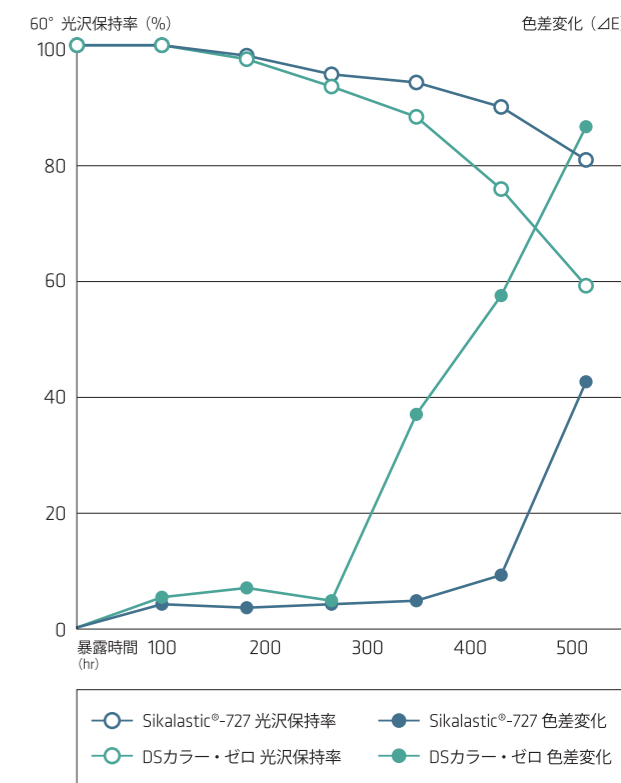
### 耐飽和アルカリ温水 (60°C) 性能比較



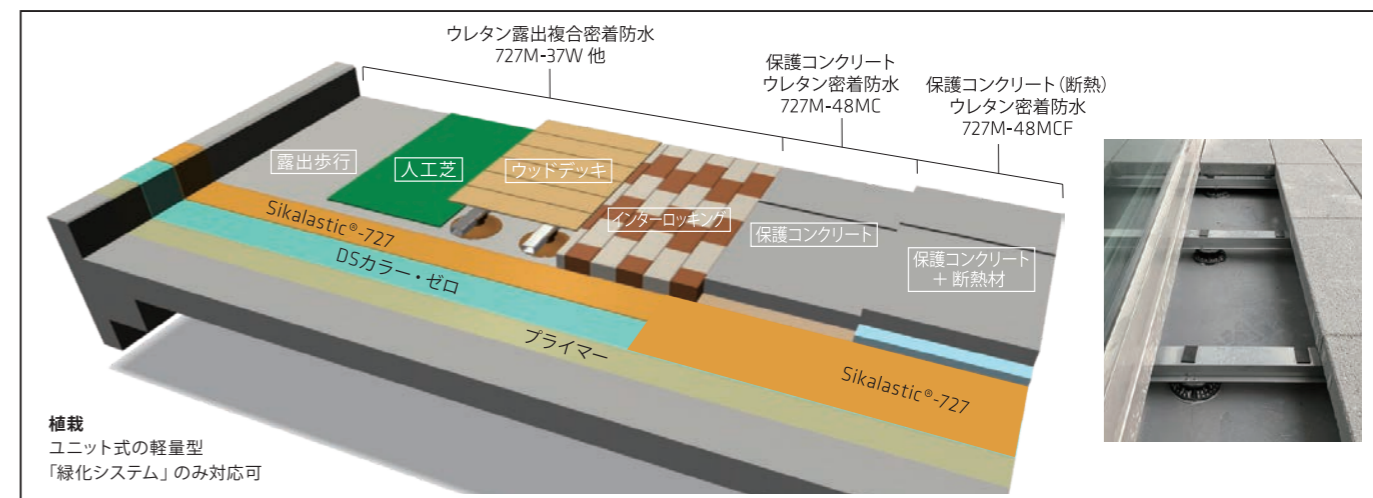
## ■ 促進耐候性試験結果

一般的な汎用2液ウレタンと、Sikalastic®-727に高日射反射塗料「DSトップ・ゼロ高反射」のライトグレーを0.2kg/m<sup>2</sup>を塗布した供試体を試験体を試験した。同じトップコートを使用した供試体でも、汎用2液ウレタンは約300時間で色差変化ΔEが2.0近く変化しているのに対し、Sikalastic®-727は約400時間でも色差変化ΔEが0.5と変色し難いことが確認された。汎用2液ウレタンは約300時間で60°光沢保持率が90%を下回るのに対し、Sikalastic®-727は約400時間で光沢保持率が90%となった。

### 耐候性比較 (光沢保持率/色差変化)



## ■ 高伸長形・高強度形 Sikalastic®-727 表層仕上げ材例

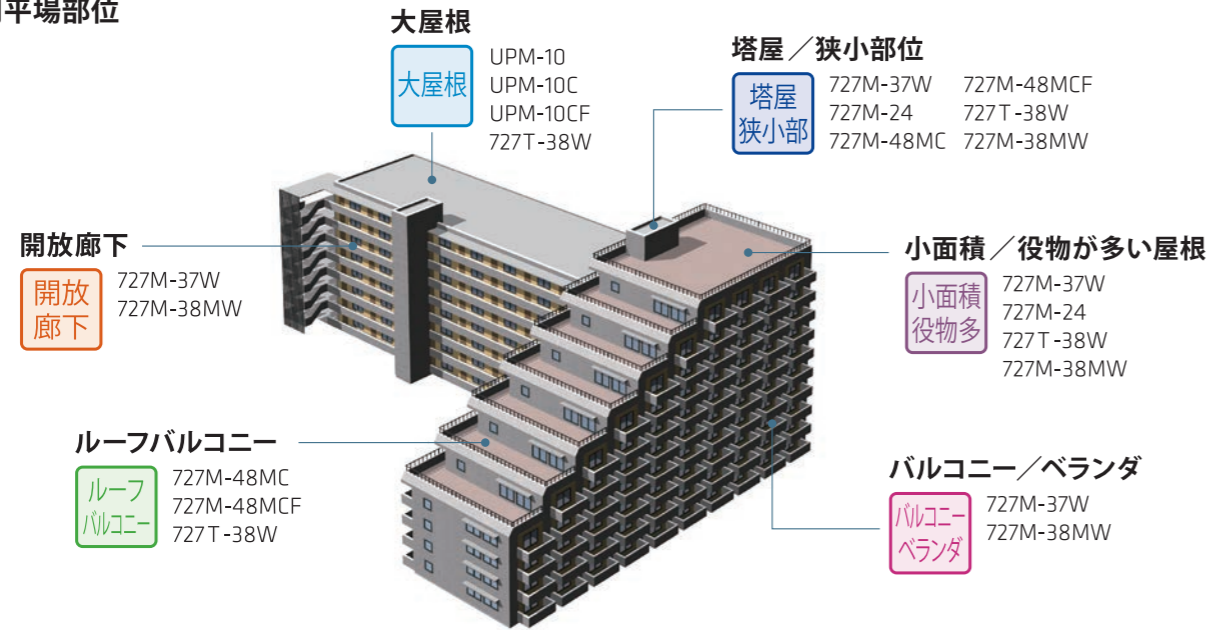


### ウレタンの上に仕上げ材を置く場合

ウレタン露出仕上げにてウッドデッキ等を設置するなど、表層に強度が求められる場合に対応が可能な工法です。設置できる仕上げ材については営業にお問い合わせください。ただし、重歩行やゴンドラ走行、重量物の設置には対応できません。

# Sikalastic®-727 製品特性

## ■ 適用平場部位



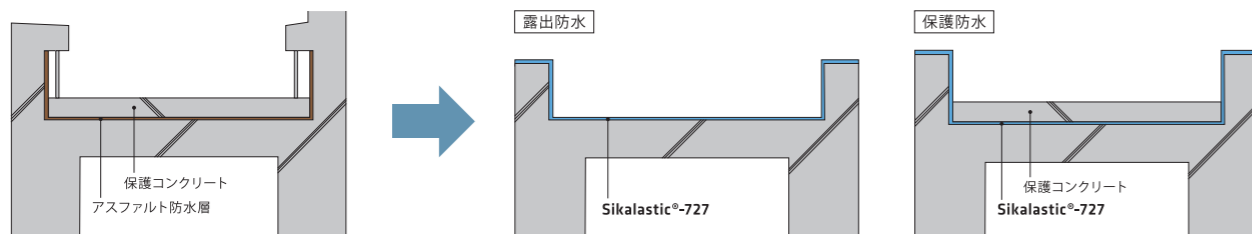
## ■ Sikalastic®-727 適応施工部位

施工ウレタン	Sikalastic®-727						Sikalastic®-727 公共仕様	
	727M-37W	727M-48	727M-24	727M-48MC	727M-48MCF	727M-48MMO	727T-38W	727M-38MW
表層	ウレタン露出複合密着防水	ウレタン露出密着防水	ウレタン露出密着防水	保護コンクリートウレタン密着防水	保護コンクリート(断熱)ウレタン密着防水	保護モルタルウレタン密着防水	ウレタン露出複合通気緩衝防水	ウレタン露出複合密着防水
新築・改修	新築・改修	新築・改修	新築・改修	新築	新築	新築	新築・改修	新築・改修
適用	平場	平場	平場	平場	平場	平場	X-1平場	X-2平場
歩行	歩行可	歩行可	非歩行	歩行可	歩行可	歩行可	歩行可	歩行可
仕上げ材設置	可 <sup>※1</sup>	可 <sup>※1</sup>		可 <sup>※1</sup>	可 <sup>※1</sup>		可 <sup>※1</sup>	可 <sup>※1</sup>
換算膜厚(mm)	3.0	4.0	2.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0
ウレタン塗布量計(kg)	3.7	4.8	2.4	4.8	4.8	4.8	3.8	3.8
Sikalastic®-727	2.4	4.8	2.4	4.8	4.8	4.8	1.8	1.6
DSカラー・ゼロ	1.3						2.0	2.2
エバーコート Zero-1 H	【1.3】 <sup>※2</sup>						【2.0】 <sup>※2</sup>	【2.0】 <sup>※2</sup>
プラマックス500								
屋上(大屋根)	△ <sup>※3</sup>	△ <sup>※3</sup>		△ <sup>※4</sup>	△ <sup>※4</sup>		○(改修のみ)	
高層屋根		○						
小面積／役物多い屋根	○	△ <sup>※3</sup>	○	△ <sup>※4</sup>	△ <sup>※4</sup>		○	○
塔屋／狭小部位	○		○	○	○		○	○
ルーフバルコニー	△ <sup>※3</sup>			○	○		○	△ <sup>※3</sup>
バルコニー／ベランダ	○							○
開放廊下	○							○
室内(浴室等)						○		

※1 各工法での仕上げ材は営業にお問い合わせください  
 ※2 エバーコートZero-1Hへの変更可  
 ※3 施工可能面積については営業にお問い合わせください  
 ※4 超速硬化スプレーウレタン吹付けが困難な場合に検討

## ■ アスファルト防水の代替として施工可能

Sikalastic®-727 は保護コンクリート押えが可能なウレタン防水であり、塔屋や小面積屋根でのアスファルト防水の代替（露出防水、保護防水）が可能な防水材料です。



## 新築専用

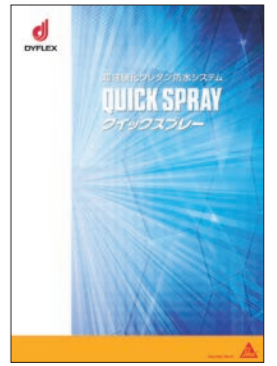
## 超速硬化スプレーウレタン 複合密着工法 UPM-10 (プラマックス 500)

新築時の大屋根防水は、アスファルト防水保護コンクリート仕上げが主流となっていますが、近年、保護コンクリート仕上げの代わりに、超速硬化スプレーウレタン仕上げが採用されています。

### 新築アスファルト防水の問題点

- ① アスファルト防水の職人不足
- ② 火気の使用
- ③ 原材料の不安定供給
- ④ 保護コンクリート打設によるCO2の発生
- ⑤ 夏季の炎天下における過酷な労働環境
- ⑥ アゴ、パラペットの複雑な納まり

### 超速硬化スプレーウレタン 複合密着工法 UPM-10 が解決してます

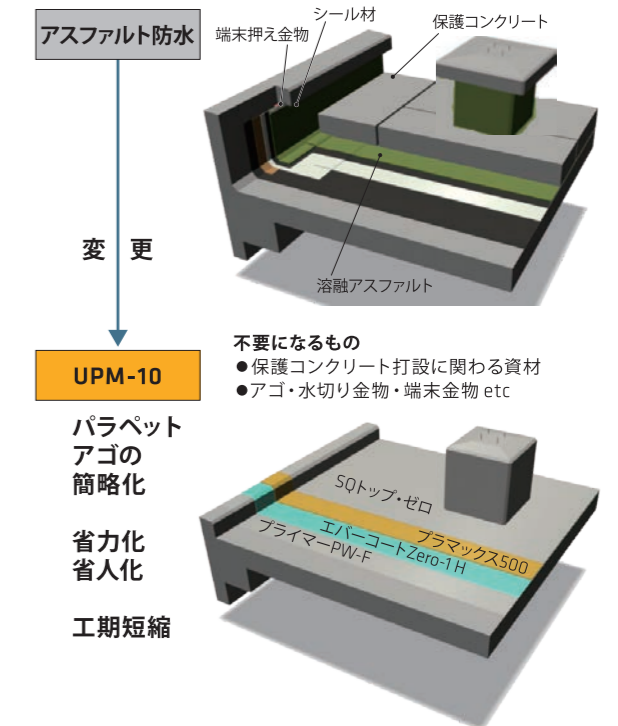


## ■ プラマックス 500 適応施工部位

施工ウレタン	プラマックス500		
	UPM-10	UPM-10C	UPM-10CF
表層	スプレーウレタン露出複合密着防水	保護コンクリートウレタン複合密着防水	保護コンクリート(断熱)ウレタン複合密着防水
新築・改修	新築	新築	新築
適用	平場	平場	平場
歩行	歩行可	歩行可	歩行可
仕上げ材設置	可 <sup>※1</sup>	可 <sup>※1</sup>	可 <sup>※1</sup>
換算膜厚(mm)	3.0	3.0	3.0
ウレタン塗布量計(kg)	3.3	3.3	3.3
Sikalastic®-727			
DSカラー・ゼロ			
エバーコート Zero-1 H	1.3	1.3	1.3
プラマックス500	2.0	2.0	2.0
屋上(大屋根)	○	○	○
高層屋根	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>
小面積／役物多い屋根	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>
塔屋／狭小部位	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>
ルーフバルコニー	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>	△ <sup>※5</sup>
バルコニー／ベランダ			
開放廊下			
室内(浴室等)			

※1 各工法での仕上げ材は営業にお問い合わせください  
 ※5 超速硬化スプレーウレタン吹付けが可能な場合に検討

## ■ アスファルトから UPM-10 で変わる現場



「Sikalastic®-727」は「プラマックス 500」での吹付け施工が困難な場所でのウレタン施工を可能にします。

- 新築時に超速硬化スプレーウレタンでの吹付けが困難な場所
- 施工箇所において周囲に対する飛散が懸念される場所

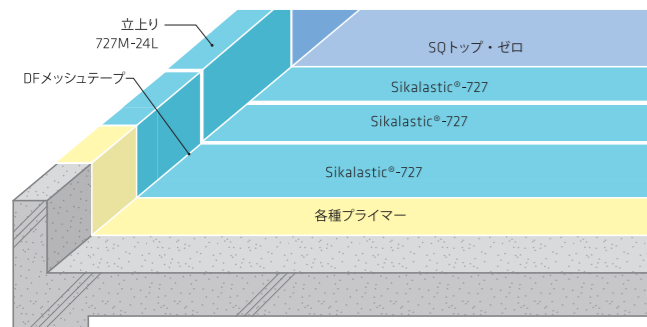
# Sikalastic®-727 平場仕様

## 平場仕様 密着防水工法（露出）

適用場所：超速硬化ウレタンスプレーの吹付けが困難な高層部位

特徴：高伸長形と高強度形の Sikalastic®-727 を 4.8kg 塗布し膜厚を確保することで高層階での露出防水に対応

### 高伸長形・高強度形 密着防水工法



防水 施工 下地	新築	改修	高層
	コンクリート	保護コンクリート® ウレタン	

※保護コンクリート下地の場合は伸縮目地補強処理、目地脱気は必須となります。  
※目地脱気の脱気は補助的な機能のため防水層の影を完全に防ぐものではありません。

### 727M-48 換算膜厚4.0mm

工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー*	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	Sikalastic®-727	1.6 kg / m <sup>2</sup>
3	Sikalastic®-727	1.6 kg / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727	1.6 kg / m <sup>2</sup>
5	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

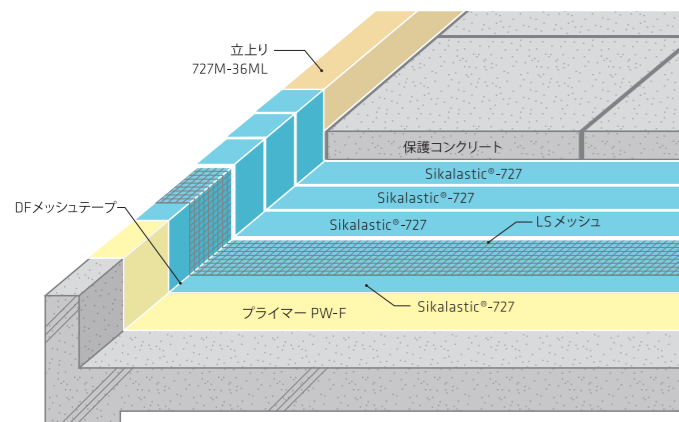
※新築時はプライマーPW-Fを使用。  
・入隅部にはDFメッシュテープによる補強を行う。

## 平場仕様 保護コンクリート仕上げ密着防水工法

適用場所：保護コンクリート仕上げが必要な部位

特徴：アスファルト防水の代わりに保護コンクリート仕上げが可能な、手塗りウレタン密着防水工法

### 高伸長形・高強度形 密着防水工法（メッシュ仕様） 保護コンクリート仕上げ



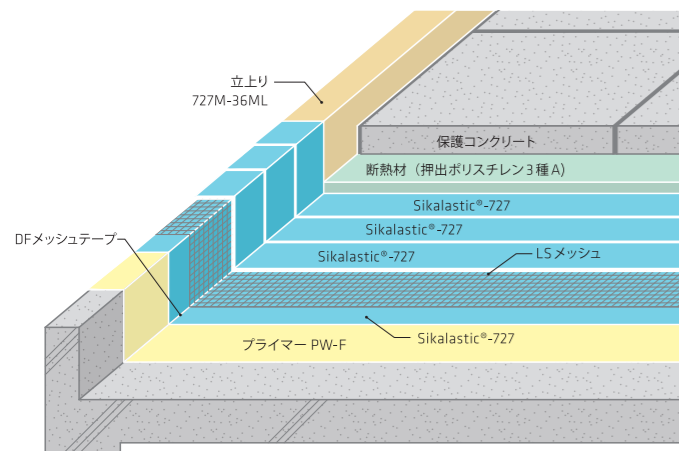
防水 施工 下地	新築	改修	塔屋 狭小部	バルコニー
	コンクリート	—		

### 727M-48MC 換算膜厚4.0mm

工程	使用材料	使用量
1	プライマーPW-F	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	Sikalastic®-727	0.4 kg / m <sup>2</sup>
3	LSメッシュ	1.1 m / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727	1.5 kg / m <sup>2</sup>
5	Sikalastic®-727	1.5 kg / m <sup>2</sup>
6	Sikalastic®-727	1.4 kg / m <sup>2</sup>
7	絶縁フィルム+保護コンクリート	別途工事

・入隅部にはDFメッシュテープによる補強を行う。

### 高伸長形・高強度形 密着防水工法（メッシュ仕様） 断熱材+保護コンクリート仕上げ



防水 施工 下地	新築	改修	塔屋 狭小部	バルコニー
	コンクリート	—		

### 727M-48MCF 換算膜厚4.0mm

工程	使用材料	使用量
1	プライマーPW-F	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	Sikalastic®-727	0.4 kg / m <sup>2</sup>
3	LSメッシュ	1.1 m / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727	1.5 kg / m <sup>2</sup>
5	Sikalastic®-727	1.5 kg / m <sup>2</sup>
6	Sikalastic®-727	1.4 kg / m <sup>2</sup>
7	断熱材+保護コンクリート	別途工事

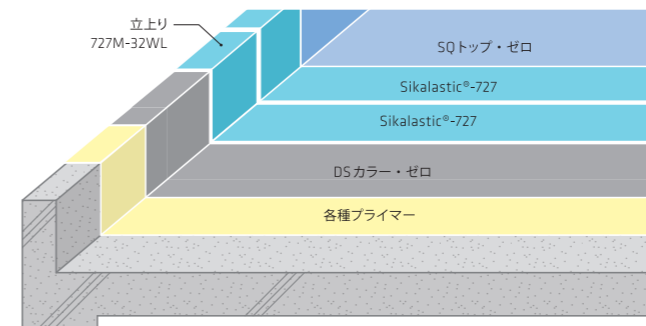
・入隅部にはDFメッシュテープによる補強を行う。

## 平場仕様 密着防水工法（露出）

適用場所：居室上の小面積屋根、塔屋、狭小部位、バルコニー、開放廊下等の部位

特徴：高伸長形と Sikalastic®-727 を組み合わせ、手塗りウレタンの特性を生かした歩行対応工法

### 高伸長形+高伸長形・高強度形 複合密着防水工法 DSカラー・ゼロ+Sikalastic®-727



防水 施工 下地	新築	改修	小面積 役物多	塔屋 狭小部	バルコニー ベランダ	開放 廊下
	コンクリート	保護コンクリート® ウレタン				

※保護コンクリート下地の場合は伸縮目地補強処理、目地脱気は必須となります。  
※目地脱気の脱気は補助的な機能のため防水層の影を完全に防ぐものではありません。

### 727M-37W 換算膜厚3.0mm

工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー* <sup>1</sup>	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	DSカラー・ゼロ* <sup>2</sup>	1.3 kg / m <sup>2</sup>
3	Sikalastic®-727	1.2 kg / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727	1.2 kg / m <sup>2</sup>
5	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

※1 新築時はプライマーPW-Fを使用。  
※2 エバーコートZero-1 HICに変更可能 (727M-37WH)。

### 超速硬化スプレーウレタンUPM工法の施工が難しい場所

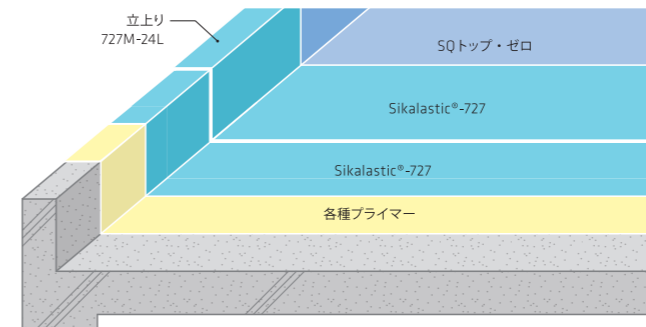
ウレタン1層目に高伸長形ウレタン「DSカラー・ゼロ」を塗布し、2、3層目に高伸長形・高強度形ウレタンである「Sikalastic®-727」を塗布する工法です。ウレタン塗布工程は3工程になります。クイックスプレーUPM-10の施工が困難な場合の手塗りウレタン対応仕様になり、UPM-10同様の使い方が可能になります。又、手塗りウレタン密着工法である為、大屋根での施工については営業にお問い合わせください。露出仕上げにて歩行が可能であり、各種仕上げ材対応可能です。

## 平場仕様 密着防水工法（露出）

適用場所：小面積屋根、塔屋、狭小部位、基礎、配管など、複雑な形状の部位

特徴：手塗りウレタンの特性を活かした密着防水工法であり、非歩行部位に特化した工法

### 高伸長形・高強度形 密着防水工法



防水 施工 下地	新築	改修	小面積 役物多	塔屋 狭小部
	コンクリート	保護コンクリート® ウレタン		

※保護コンクリート下地の場合は伸縮目地補強処理、目地脱気は必須となります。  
※目地脱気の脱気は補助的な機能のため防水層の影を完全に防ぐものではありません。

### 727M-24 換算膜厚2.0mm

工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー*	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	Sikalastic®-727	1.2 kg / m <sup>2</sup>
3	Sikalastic®-727	1.2 kg / m <sup>2</sup>
4	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

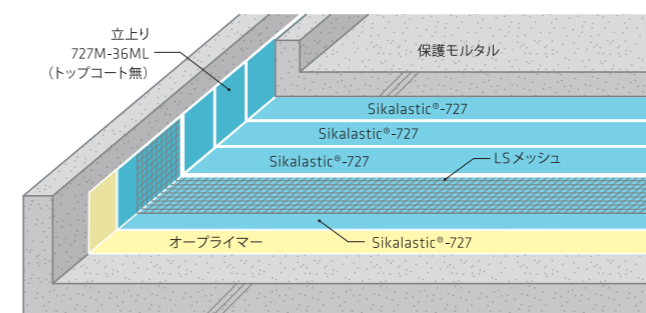
※新築時はプライマーPW-Fを使用。

## 平場仕様 保護モルタル仕上げ密着防水工法（浴室等）

適用場所：室内防水（特に湿気や温水が問題となる場所）

特徴：保護モルタルと防水層の間に滞留した水が乾燥せず防水層に常時影響を与える環境でも、アルカリ温水に対する高い耐久性と手塗りウレタンの特性を活かした施工性をもつ、室内防水工法

### 高伸長形・高強度形 密着防水工法（メッシュ仕様） 保護モルタル仕上げ



防水 施工 下地	新築	改修	浴室
	コンクリート	—	

### 727M-48MMO 換算膜厚4.0mm

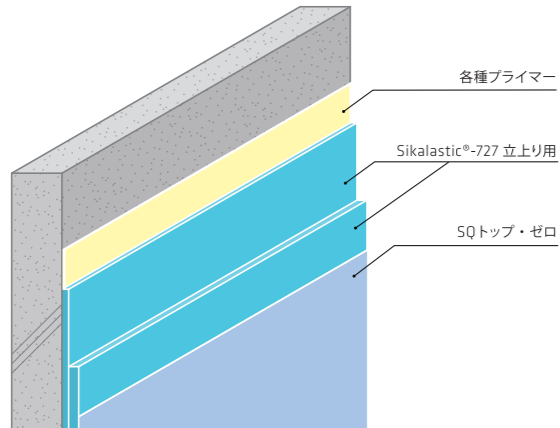
工程	使用材料	使用量
1	オーバープライマー	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	Sikalastic®-727	0.4 kg / m <sup>2</sup>
3	LSメッシュ	1.1 m / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727	1.5 kg / m <sup>2</sup>
5	Sikalastic®-727	1.5 kg / m <sup>2</sup>
6	Sikalastic®-727	1.4 kg / m <sup>2</sup>
7	保護モルタル	別途工事

立上りラスモルタル仕上げ工程は別途工事となります。

# Sikalastic®-727 立上り仕様

## 立上り仕様 密着防水工法（露出）

標準立上り工法  
高伸長形・高強度形 密着防水工法



防水 施工 下地	新築	改修
	コンクリート	コンクリート ウレタン

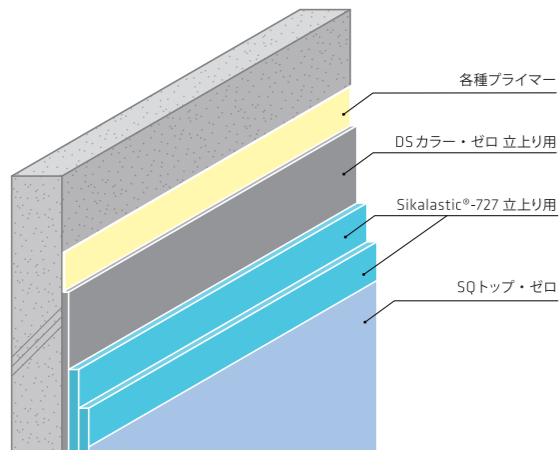
### 727M-24L 換算膜厚2.0mm

工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー*	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	Sikalastic®-727 立上り用	1.2 kg / m <sup>2</sup>
3	Sikalastic®-727 立上り用	1.2 kg / m <sup>2</sup>
4	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

※平場工法と同じプライマーを使用してください。

727M-37W 工法専用の複合密着の立上り工法です。

## 高伸長形 + 高伸長形・高強度形 複合密着防水工法 DSカラー・ゼロ + Sikalastic®-727



防水 施工 下地	新築	改修
	コンクリート	コンクリート ウレタン

### 727M-32WL 換算膜厚2.5mm

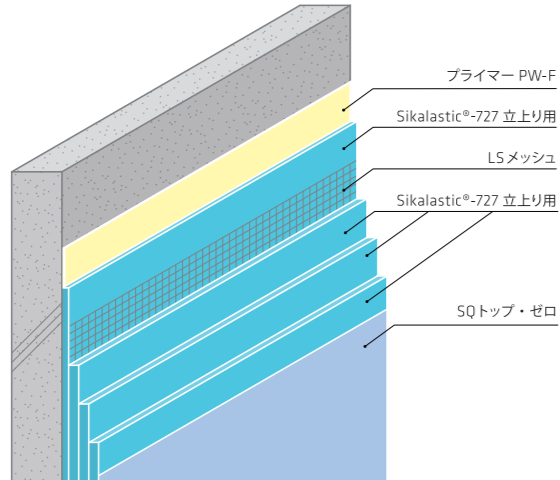
工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー*1	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	DSカラー・ゼロ 立上り用*2	0.8 kg / m <sup>2</sup>
3	Sikalastic®-727 立上り用*2	1.2 kg / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727 立上り用*2	1.2 kg / m <sup>2</sup>
5	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

\*1 平場工法と同じプライマーを使用してください。  
\*2 エバーコートZero-1H立上り用に変更可能(727M-31WHL)。

## 立上りメッシュ仕様 密着防水工法（露出）

727M-48MC、727M-48MCF 工法（保護コンクリート仕上げ）、727M-48MMO 工法（保護モルタル仕上げ）専用の立上り工法です。

高伸長形・高強度形 密着防水工法



防水 施工 下地	新築	改修
	コンクリート	—

### 727M-36ML 換算膜厚3.0mm

工程	使用材料	使用量
1	プライマーPW-F*	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	Sikalastic®-727 立上り用	0.4 kg / m <sup>2</sup>
3	LSメッシュ	1.1 m / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727 立上り用	1.1 kg / m <sup>2</sup>
5	Sikalastic®-727 立上り用	1.1 kg / m <sup>2</sup>
6	Sikalastic®-727 立上り用	1.0 kg / m <sup>2</sup>
7	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

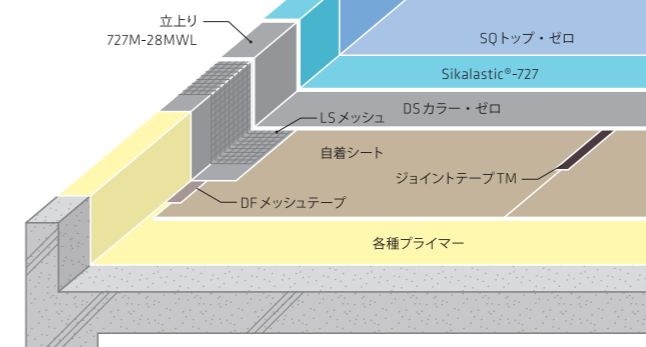
※727M-48MMO工法の場合は、オープライマーを使用してください。

# Sikalastic®-727 公共建築工事標準仕様

## 平場仕様 DS カラー・ゼロ + Sikalastic®-727（露出）

公共仕様 X-1、X-2 工法に Sikalastic®-727 を使用する場合、ウレタン1層目に高伸長形の DS カラー・ゼロを塗布し、ウレタン2層目に高伸長形・高強度形の Sikalastic®-727 を塗布する複合防水です。X-1、X-2 にて表層に高強度が必要とされる場所に適しています。

### X-1同等工法



防水 施工 下地	新築	改修	大屋根 (改修) 小面積 役物多 塔屋 狭小部 ルーフ バルコニー
	コンクリート	保護コンクリート* ウレタン	

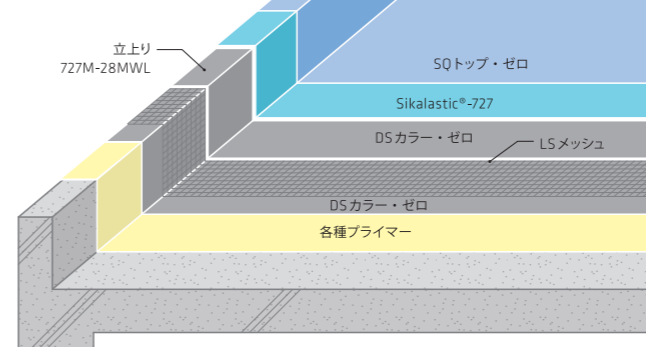
※保護コンクリート下地の場合は脱気筒は必須となります。

### 727T-38W 換算膜厚3.0mm

工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	自着シート ジョイントテープTM	1.0 m / m <sup>2</sup> 1.2 m / m <sup>2</sup>
3	DSカラー・ゼロ*	2.0 kg / m <sup>2</sup>
4	Sikalastic®-727	1.8 kg / m <sup>2</sup>
5	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

※エバーコートZero-1Hに変更可能(727T-38WH)。

### X-2同等工法



防水 施工 下地	新築	改修	小面積 役物多 塔屋 狭小部 バルコニー 開放 廊下
	コンクリート	保護コンクリート* ウレタン	

※保護コンクリート下地の場合は伸縮目地補強処理、目地脱気は必須となります。  
※目地脱気は補助的な機能のため防水層の影を完全に防ぐものではありません。

### 727M-38MW 換算膜厚3.0mm

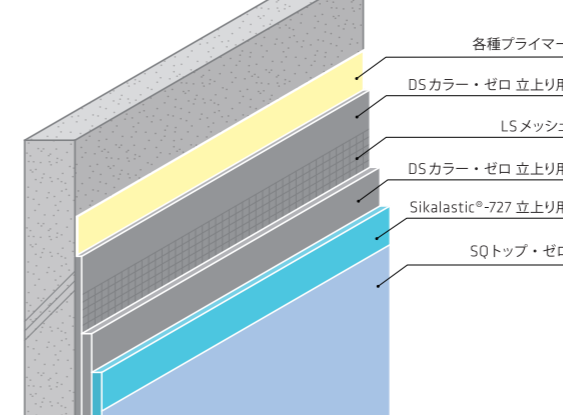
工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	DSカラー・ゼロ*	0.4 kg / m <sup>2</sup>
3	LSメッシュ	1.1 m / m <sup>2</sup>
4	DSカラー・ゼロ*	1.8 kg / m <sup>2</sup>
5	Sikalastic®-727	1.6 kg / m <sup>2</sup>
6	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

※エバーコートZero-1Hに変更可能(727M-38MWH)。

## 立上り仕様 DS カラー・ゼロ + Sikalastic®-727 立上り用（露出）

公共建築工事標準仕様書 X-2 の立上り仕様です。平場の密着工法 (X-2)、通気緩衝工法 (X-1) の立上り部に使用する立上り専用の工法です。平場と同様、DS カラー・ゼロ立上り用と Sikalastic®-727 立上り用の複合防水です。

### X-2同等工法



防水 施工 下地	新築	改修
	コンクリート	コンクリート ウレタン

### 727M-28MWL 換算膜厚2.0mm

工程	使用材料	使用量
1	各種プライマー*1	0.15 kg / m <sup>2</sup>
2	DSカラー・ゼロ立上り用*2	0.4 kg / m <sup>2</sup>
3	LSメッシュ	1.1 m / m <sup>2</sup>
4	DSカラー・ゼロ立上り用*2	1.4 kg / m <sup>2</sup>
5	Sikalastic®-727立上り用*2	1.0 kg / m <sup>2</sup>
6	SQトップ・ゼロ	0.2 kg / m <sup>2</sup>

\*1 平場工法と同じプライマーを使用してください。  
\*2 エバーコートZero-1H立上り用に変更可能(727M-26MWLH)。

# 防水施工条件 新築

信頼性の高い防水層を設置するため、防水施工の前に以下の項目について条件が満たされていることをご確認ください。

- 下地の強度が十分であること。
  - 現場打ちコンクリートは設計基準強度を満たしていること。
  - 防水層に悪影響を及ぼさないように配筋上の配慮や調合設計上の工夫、ならびに打設後の養生等の施工管理に注意することでひび割れの発生を少なくし、分散させる。
  - 降雨中のコンクリート打設、及びコンクリート打設後の降雨等で強度が著しく低下している場合は、ハツリ撤去の上コンクリートを打ち直す等の処置にて強度を復旧させる。
- 下地の乾燥が十分であること。
  - 目視にて表面が白く乾燥していることを確認する。  
一般的に普通コンクリートで夏季3週間・冬季4週間程度の乾燥養生期間を目安とするが、下地構成（デッキプレートなどの片面乾燥や吸水性の高い下地等）や天候によって大きく左右されるため、防水層の施工に先立ち以下のような方法で十分に乾燥していることを確認する。
    - 高周波静電容量式水分計を使用した測定。
    - 不透湿シートで床下地表面を覆い周囲をガムテープ等の張付けで密封状態とし、翌日に内面の結露水の有無を確認する。
- 表面が平滑であること。
  - 平表面は金ゴテ押えで平滑とする。
  - 浮き・表面剥離・レイタンス等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
  - 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
  - 立上りも平場と同様に平滑とし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
  - ポリマーセメントを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と耐溶剤性を有する材料「ダブルテックスNEQ」を使用する。
- できるだけ速やかに排水させるための処置を施すこと。
  - 水勾配は1/100以上とする。
  - ルーフドレンや排水落し口等はスラブ面より低くし、周囲の水はけを良くしながら堅固に設置する。
  - ドレンはアスファルト防水用またはシート防水用のツバが幅広タイプのもを使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。
  - ドレンの排水能力は将来の改修工事を見据えて余裕を持たせた設定が望ましい。またドレン以外にもオーバーフロー管を設置し、ここから雨水が落ちてくることで使用者にドレンの目詰り等の排水機能の低下を知らせる措置が望まれる。
- 下地表面がよく清掃されていること。
  - プライマーや接着剤の接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
- 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
  - 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）には手塗りウレタン塗膜防水材（以下：手塗りウレタン）あるいはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはリカット後ポリウレタン系シーリング材を充填するか、手塗りウレタン＋補強布による補強張り、あるいは両方の処置を施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、手塗りウレタン＋補強布による補強張りを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- 入隅および出隅が適切に処理されていること。
  - 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。  
また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度/W＝5mm以上（メーカー推奨値15～30mm程度）の面取りを施す。
- 設備基礎関連で適切な雨仕舞いができること。
  - コンクリート基礎は原則「躯体一体型」とし、防水層の上に乗せることは極力避ける。とくに総重量の大きい設備の場合はこれを遵守する。
  - 総重量および容積が大きい大型設備の基礎架台は、将来の改修工事を見据えて再塗布が可能となるような作業空間（H450mm程度以上、推奨600mm程度以上）を確保することが望ましい。
  - 表面は平滑とし、不具合部には適切な処置を施す。また天端は雨水が滞留せず、速やかに排水されるように水平ではなく角度を付けることが望ましい。なお入隅および出隅については7.- (1)と同様とする。
  - アンカー類は原則「先打ち」とし、周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとっておく。
  - 基礎ブロックの下やCチャン（リップ溝形鋼）・H鋼等と防水層が取合う部分には防振ゴム（t＝5mm／先端から10mm以上の余剰分を確保）を設置する。また防水層の巻上げ（天端よりH＝15mm以上）を確保する。
- 金物関連の取合いで適切な雨仕舞いができること。
  - H型鋼や角形鋼管を垂直に設置する場合はベースプレートで完全に固定し、ボルトにはキャップとポリウレタン系シーリング材充填を施す。
  - 丸カン・手摺支柱足元等は周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとって、予めポリウレタン系シーリング材を充填しておく。  
また防水層の巻上げ（H＝15mm以上）を確保する。
  - ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー＃100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- 配管および配線が防水施工に支障が無いこと。
  - 防水層上での配管および配線の設置は防水施工の後とするか、または施工に支障が無い段階での工事とする。  
また将来の改修工事を見据えて、再塗布が可能となるような措置（高さの確保、または吊上げが可能な形状と荷重）をとることが望ましい。
  - 防水層を貫通する配管や配線は可能な限り避けること。止むを得ず設置する場合は防水施工に支障が無い位置とし、スリーブを使用して手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）＋補強布による補強張りを施す。なお、スリーブはグラつきが無いように完全に固定する。
- PCa下地およびALC下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
  - 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
  - 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメントを塗布する。  
また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。
  - 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、通気緩衝シートを張るか、絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）＋補強布による補強張りにて絶縁処理を施す。
  - 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げれる。その際使用する材料は3.- (5)と同様のものとする。

# 防水施工条件 改修

改修工事の場合は既設防水層の種類や劣化状況、および撤去の有無、また新設の防水仕様の種別によって下地処理の内容が異なります。以下の項目をご参考に、現場に即した適切な処置を行ってください。

- 下地の乾燥が十分であること。
  - 新設する防水層に支障が生じないよう、高圧水洗浄後は十分に乾燥させる。  
また保護仕様の場合、保護コンクリート内に残留水分があるため冬季の施工ではとくに注意し、可能な場合は洗浄に替えて機械研削を行う。
- コンクリートおよびモルタル部が健全であること。
  - 下地面は平滑にする。
  - 浮き・表面剥離等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
  - 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
  - 露筋・爆裂は脆弱部を撤去し、鉄筋の錆を落した後断面修復材で処置を施す。
  - 立上りも平場と同様に平滑にし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
  - ポリマーセメントを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と圧縮強度、また耐溶剤性を有する材料「ダブルテックスNEQ」を使用する。
- 排水勾配は排水に支障がない程度とする。
  - 水勾配は1/100以上とする。
  - 既設のルーフドレンや排水落し口等の周囲の水はけが著しく悪い場合は、周囲のハツリ撤去や納まりの検討を行って勾配修正を施す。
  - 改修用ドレンはウレタン塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。また設置に際しては排水面積計算を行い、場合によってオーバーフロー管の設置や既設ドレンの継続使用を行う。
- 下地表面がよく清掃されていること。
  - プライマーやボンドの接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
  - ドレン付近に堆積した泥土やゴミ、繁茂しているコケ・植物等も完全に除去する。
- 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
  - 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）にはウレタン塗膜防水材またはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはリカット後、ポリウレタン系シーリング材を充填するか手塗りウレタン＋補強布による補強張り、あるいは両方の処置を施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、手塗りウレタン＋補強布による補強張りを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- 入隅および出隅が適切に処理されていること。
  - 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度／W＝5mm以上（メーカー推奨値15～30mm程度）の面取りを施す。
- コンクリート基礎廻りで適切な雨仕舞いができること。
  - 既設の基礎下部に隙間がある場合はポリウレタン系シーリング材の充填を施し、新規ウレタン塗膜層で巻き込む。
  - 既設の防振ゴムが著しく劣化している場合は取替えを行うか、余剰分を切除した後入隅にポリウレタン系シーリング材を打ち、コンクリート基礎ごと新規ウレタン塗膜層で巻き込む。また手塗りウレタン＋補強布による補強張りを施す。
- 金属類の取合いが適切に処置されていること。
  - 防水層と取合う金属部分は表面の汚れ・油脂類・錆・塗料を除去し、プライマーの接着が阻害されないようにする。
  - 発錆や腐食が進行し、著しく劣化したものは交換をする。
  - 固定不良が無いことを確認する。また挙動が頻繁あるいは大きいと思われる箇所については、絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）＋補強布による補強張りにて絶縁処理を施す。
  - ウレタン塗膜防水が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー＃100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- シーリング材の設置が適切にされていること。
  - 劣化が進行しているシーリング材は撤去し、打替えを行う。
  - 防水層に支障を生じさせないように、シーリング材の種類選択は適切に行うこと。
  - 防水層端末・金物の取合い等、必要に応じて適切なシーリング材が設置されていること。
- 保護層の伸縮目地に適切な処置がされていること。

〈MGテープ〉

  - 既設目地部のキャップおよび保護コンクリート表面より突出している目地材は撤去する。また伸縮目地の交差部はクロスラップさせずに張り付ける。

〈MGタイト〉

  - 既設目地材は十分に除去し、水上がりを防止するために空隙を必ず設けた上でバックアップ材を設置する。その後MGタイトで平滑に仕上る。
- PCa下地およびALC下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
  - 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
  - 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメントを塗布する。また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。
  - 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、通気緩衝シートを張るか、絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）＋補強布による補強張りにて絶縁処理を施す。
  - 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げる。その際使用する材料は2.- (6)と同様のものとする。

# 各工法施工上および仕上りに関する注意事項

〈**共通事項（施工）**〉

- ウレタンおよびプライマー・トップコートの施工中、または硬化養生中に降雨・夜露等の水分にさらされる可能性がある場合は施工を控えてください。とくに水系材料は気温によって硬化時間が大きく左右されるため、注意してください。
- 溶剤系材料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い特定化学物質作業主任者を選任するなど法令順守をお願いします。
- 下地に応じて適切なプライマーを選定してください。
- プライマー塗布時、下地への吸い込みが多い場合は再塗布してください。
- 使用する材料は必ず保存期間内のものをご使用ください。
- 材料の扱いに際してはSDS（安全データシート）やPDS（プロダクトデータシート）をよく読み、適切な扱いを行ってください。
- 材料は直射日光や風雨に晒される場所を避け、冷暗所に貯蔵・保管してください。
- 材料の貯蔵・保管場所へは作業者以外の立入りを禁止し、また転倒防止や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
- 産業廃棄物（廃材・廃液）は適切に処理してください。
- 既設防水層に断熱板が設置されている場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時季は結露が生じることが多くなります。とくにトップコートの「艶引け（乾燥硬化前に水分の影響による現象）」を避けるため、午後からの塗布作業には十分注意してください。
- ウレタン塗膜防水材の塗布後に降雨・降雪または夜露等の水気にさらされた場合や、塗継ぎ・増塗りおよびトップコートの塗布が接着可能時間を過ぎる場合は、次工程で塗布する材料との接着力低下を防止するために表面を良く清掃し、層間プライマーの塗布を行ってください。
- 風通しの悪い場所で施工する場合は防毒マスクの着用や換気装置の設置を行い、十分な安全対策を講じるとともに、材料の硬化状況にもご注意ください。
- 2成分形タイプの製品は、必ず主剤と硬化剤の組合せを守ってください、不具合の原因となります。
- ウレタン塗膜防水材の平場用と立上り用を混ぜて粘度調整する場合は、必ずそれぞれのウレタンを一度混合攪拌させてからミックスするように注意してください。
- 2成分形タイプの材料攪拌は、規定の配合比を守り攪拌機で行ってください。なお攪拌機はモーターの出力が大きく、かつ回転の遅いものを使用してください。回転が速いと気泡を巻き込み、ピンホールの発生や仕上りを悪くすることになります。
- ウレタン塗膜防水材を希釈する場合は、専用の希釈剤を規定量を守ってご使用ください。
- 冬季などでウレタン塗膜防水材の硬化を早める場合には、必ず専用の硬化促進剤を規定量を守ってご使用ください。
- 脱気装置を設置する際は、原則水上に設置してください。また脱気装置は金属製であるため、避雷導線は1.5m以上離して設置してください。
- アンカー類の穿孔は所定の穿孔径・穿孔深さを守り、垂直になるよう行ってください。また孔内および周辺の切粉は必ず除去してください。
- 小分けする場合は、必ずブレミキシングを行ってください。

〈**共通事項（仕上り）**〉

- 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。とくに改修工事においては既設アスファルトルーフィングやシート防水材のラップジョイント部分の凸部が目立つ場合があります。
- 既存防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフバルコニー等の居室付近での塗布は避けてください。
- 粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」「エストopp#20」「エストopp#40」のいずれかを添加してください。但しいずれも防滑性能を保証するもではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。

〈**通気緩衝工法）P.10**

- 自着層付改質アスファルト系通気緩衝シート「自着シート」は強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- 「自着シート」については短手ジョイントの隙間は2mm以内、長手ジョイントの隙間については、3～5mm程度離して下さい。
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えと、ウレタン塗膜防水材塗布後に破断することがありますので、300mm以上ずらしてください。
- 「自着シート」張付け後の転圧は、浮きや皺を発生させないために必ずハンドローラーで転圧を行ってください。
- 「自着シート」を施工する場合は、プライマーの乾燥時間を確実に取って下さい。乾燥時間が不足すると、裏面の改質アスファルトが融解し、通気性能の低下につながる恐れがあります。
- 「自着シート」上はスパイクシューズでの歩行を避けてください。シートが破ける恐れがあります。
- 「自着シート」の張付け後、ウレタン塗膜防水材の塗布工程が翌日以降になる場合は必ずシート端部およびジョイントの雨仕舞いを行ってください。雨仕舞いを行わず雨や夜露の影響を受けた場合、次工程の乾燥養生に時間がかかったり、膨れや剥離の原因となります。
- 新たに敷設した「自着シート」の上に材料を置く場合は、ベニヤ板等で養生を行いその上に置いてください。
- 補強布は「自着シート」との重ね幅を100mm以上にしてください。

〈**密着工法）P.7～10**

- 補強布は重ね幅50mm以上で張付けてください。

〈**下地がウレタン塗膜防水材の場合の塗重ね改修工法（オーバーレイ工法）**〉

- 既存ウレタン塗膜防水層の種類や劣化状況によっては、ウレタン塗膜防水材の塗重ね改修工法（オーバーレイ工法）を採用できない場合があります。

# 使用材料一覧

製品区分	品名	入目・荷姿	適用	備考
ウレタン防水材	<b>Sikalastic®-727</b>	24kg／セット 主剤12kg・硬化剤12kg	特定化学物質無配合 2 成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021 屋根用塗膜防水材 高強度形・高伸長形	硬化物比重 1.2
	<b>Sikalastic®-727 立上り用</b>	18kg／セット 主剤9kg・硬化剤9kg	特定化学物質無配合 2 成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021 屋根用塗膜防水材 高強度形・高伸長形	硬化物比重 1.2
	<b>DS カラー・ゼロ</b>	27kg／セット 主剤9kg・硬化剤18kg	特定化学物質無配合 2 成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021 屋根用塗膜防水材 高伸長形	硬化物比重 1.3
	<b>DS カラー・ゼロ 立上り用</b>	18kg／セット 主剤6kg・硬化剤12kg	特定化学物質無配合 2 成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021 屋根用塗膜防水材 高伸長形	硬化物比重 1.5
	<b>エバーコート Zero-1 H</b>	18kg／缶	特定化学物質無配合 1 成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021 屋根用塗膜防水材 高伸長形	硬化物比重 1.3
	<b>エバーコート Zero-1 H 立上り用</b>	18kg／缶	特定化学物質無配合 1 成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021 屋根用塗膜防水材 高伸長形	硬化物比重 1.3
プライマー	<b>DS プライマー・エコ</b>	16kg／缶	コンクリート、モルタル下地用 1 成分形ウレタン樹脂プライマー	弱溶剤系 <sup>※2</sup>
	<b>層間プライマー E</b>	14kg／缶	既存ウレタン下地用、既存塩化ビニル樹脂シート下地用及び塩化ビニル樹脂被覆銅板用 1 成分形ウレタン樹脂プライマー	弱溶剤系 <sup>※2</sup>
	<b>オープライマー</b>	16kg／缶	コンクリート、モルタル、既存ゴムシート下地用 2 成分形エポキシ樹脂プライマー	水系
	<b>プライマー PW-F <sup>※1</sup></b>	12kg／セット	コンクリート、モルタル、及び金属下地用 2 成分形エポキシ樹脂プライマー	溶剤系
	<b>層間プライマー J <sup>※1</sup></b>	12kg／セット	既存ウレタン下地用 2 成分形ウレタン樹脂プライマー	溶剤系
各種トップコート	<b>SQ トップ・ゼロ</b>	15kg／セット	2 成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（速乾タイプ） （推奨：トップコート）	弱溶剤系 <sup>※2</sup>
	<b>DS トップ・ゼロ</b>	15kg／セット	2 成分形アクリルウレタン樹脂トップコート	弱溶剤系 <sup>※2</sup>
	<b>AS トップ・ゼロ</b>	15kg／セット	2 成分形アクリルシリコン樹脂トップコート	弱溶剤系 <sup>※2</sup>
	<b>フッ素スーパートップ・ゼロ</b>	10kg／セット	2 成分形フッ素樹脂トップコート	弱溶剤系 <sup>※2</sup>
シート・補強布	<b>LS メッシュ</b>	1.04m×100m／巻	平場、立上り共通ウレタン塗膜防水材用補強布 （材質：ガラス繊維）	
	<b>LS メッシュ・ソフト</b>	1.02m×50m／巻	平場、立上り共通ウレタン塗膜防水材用補強布 （材質：ポリエステル繊維）	
	<b>DF メッシュテープ</b>	100mm×50m／巻	通気緩衝シート用端末補強及び入隅補強用テープ	
	<b>ジョイントテープ TM</b>	100mm×50m／巻	通気緩衝シート用ジョイント補強テープ	
	<b>自着シート</b>	1m×15m／巻	自着層付改質アスファルトシート系通気緩衝シート	
副資材	<b>粗面仕上材</b>	0.5kg／袋／箱	粗面仕上材	
	<b>エストopp #20</b>	1kg／袋	粗面仕上げ用ウレタンチップ	
	<b>エストopp #40</b>	1kg／袋	粗面仕上げ用ウレタンチップ	
	<b>US 環境キシャク剤</b>	12kg／缶	環境対応型ウレタン塗膜防水材用希釈剤	
	<b>US キシャク剤 <sup>※1</sup></b>	15kg／缶	ウレタン塗膜防水材用希釈剤	
	<b>MG テープ</b>	100mm×15m／巻	伸縮目地処理用テープ	
<b>MG タイト</b>	34kg／セット	ガラス発泡骨材入りポリマーセメントモルタル		

<sup>[</sup>\*1 エチルベンゼン、メチルイソブチルケトン、スチレン、ジクロロメタンのいずれかが含まれているため屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。塗 DSトップ・ゼロ 15kg／セット 2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（弱溶剤系 ※2）

<sup>[</sup>\*2 弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。